

# かたりべ 92

豊島区立郷土資料館だより

## やったー!! 大きな練馬大根を収穫したよ!



練馬大根を手にして説明する加藤和雄さん



郷土資料館では、企画展「一粒入魂〜日本の農業をささえた種子屋〜」（会期一〇月一六日〜二月一四日）の関連事業として、十一月二三日（日）に、練馬大根収穫体験講座「練馬大根を収穫しよう!」を開催しました。

全国的に知られる練馬大根の歴史は古く、五代將軍徳川綱吉が脚氣治療のため、尾張から大根種子を取り寄せ下練馬村で栽培させたという説や、上練馬村の農家鹿島又六が品種改良した説などがあります。武蔵野台地は大根栽培に適していたため、練馬区だけでなく豊島区もかつては大根の一大産地でした。先が細長い長尻大根は沢庵漬用として、明治後期以降軍の需要が高まり、大量生産されました。しかし長年にわたる連作で作柄が低下し、昭和初期から続いたウイルス被害や都市化の影響などにより、昭和三〇年頃には市場から一時姿を消しました。その後、練馬区では平成元年（一九八九）に農家・農協と連携して練馬大根の育成事業が開始され、以後、毎年収穫体験や販売事業が行なわれています。

郷土資料館では、練馬区経済課都市農業係からアドバイスと生産農家のご紹介をしていただき、練馬区大泉学園町の加藤和雄さんのご協力を得て、体験講座用として練馬大根一〇〇本分をご提供いただきました。

当日は晴天に恵まれ、区内外から六〇名をこえる家族連れが参加しました。最初に加藤さんから練馬大根のお話と引き抜き方法の指導を受けた後、畑に入って一人ずつ挑戦しました。練馬大根は六〇〜八〇センチと長く、中太りのため、土の中でひっかかってなかなかうまく引き抜くことができません。途中で折れてしまった人もいましたが、練馬大根の栽培の難しさや、収穫作業がいかに重労働であるかを実感する貴重な体験となったようです。

今回、講座の募集方法など課題も残りしましたが、大きな練馬大根を手にして皆さんに喜んでいただくことができました。その夜、私たちも収穫した練馬大根を美味しくいただきました。ご協力いただきました練馬区と加藤さんに改めて御礼申し上げます。

(横山)



# 疎開学童の見た米軍空襲

## 八月九—一〇日艦上機・東北大空襲

アメリカ軍の空襲からのがれるために行なわれた学童疎開（集団と縁故）でありながら、疎開先で空襲にあった事例がみられます。東京・八王子などでは、疎開学童が空襲の犠牲となっています。

### 寮母さんの目撃

豊島区にも、疎開中の米軍空襲を体験・目撃した記録があります。ここではそのうち、山形県の例について、それがどのような空襲だったのかを見ていきたいと思います。

長崎第三国民学校（現・権名町小学校）の疎開学寮であった山形市高原町の龍泰寺で寮母をされていた田村玉枝さんは、寮母日誌に次のように書いています。

（八月九日）「午前五時三十分より小型機の来襲／付近を機銃掃射爆弾攻撃を繰返せしも当寮被害なし／一日中実戦を目のあたりにして落付かず」

（八月一〇日）「昨日に引つづき小型機の来襲／鮮やかな指揮官機に続く急降下爆撃を目のあたりにして閑しりをかむ思

いだった」（『豊島の集団学童疎開資料集（9）』一五〇ページ、なお、原文の日付

は一〇・一一日となっていますが、前後関係から一日ずれていると思われる。

### 東北地方一円への同時空襲

このように疎開学童たちをおびやかした、この八月九・一〇日の空襲について、以下、アメリカ軍の資料（※）から分ることを見ていきます。

まず、この空襲は、「八・九—一〇艦上機・東北大空襲」とでもいうべきアメリカ海軍の艦上機（艦載機）による東北地方一円に対する攻撃の一部でした。この両日、宮城県金華山沖の太平洋上（北緯三八度一〇分・東経一四四度二〇分付近）に集結した米海軍の航空母艦から飛び立ったF6Fヘルキャット、F4Uコルセア、SB2Cヘルダイバー、TBMアベンジャーといった戦闘機・爆撃機が、青森・岩手・宮城・福島・秋田・山形・新潟の各県を、飛行場や工場を主目標として襲ったのです。九日には岩手県釜石市への二度目の艦砲射撃がありました。

東北地方への集中攻撃はすでに七月一四・一五日に最初の釜石艦砲射撃ともに行なわれていますので、八・九—一〇

は第二次艦上機・東北大空襲というべきかもしれません。ただし、七月には山形県は攻撃されませんでした。

### 九日の空襲

八月九日の山形県への攻撃目標は米軍資料によると神町飛行場と山形飛行場になっています。神町飛行場は北村山郡東根町（現・東根市）にあり、当時は海軍航空隊や飛行予科練習生が駐屯していました（現在の山形空港の位置）。山形飛行場となっているのは東村山郡楯山村と同郡出羽村（いずれも現在は山形市）にまがっていた日本飛行機株式会社（飛行場）で、楯山飛行場とか漆山飛行場と呼ばれていたものだと思います。この飛行場は龍泰寺学寮に比較的近く、当時は神町飛行場の補助訓練場となっていました。

米軍の飛行隊ごとの報告書から山形飛行場を攻撃した例を、まとめると次のようになります（いずれも、航空母艦レキシントンから発進）。

○ 四時一〇分、F6F一二機が母艦を

発進（攻撃参加は一〇機）、六時から神町を攻撃、日本機二〇機破壊・一三機損害、ついでうち四機が山形を攻撃、二機破壊・二機損害。

○ 五時一〇分発進したF6F八機が、六時五〇分から神町・山形を攻撃、

神町で一機破壊・一機おそらく破壊・八機損害、神町では格納庫などにも被害。

○ 七時一〇分、TBM一二機（攻撃参加は九機）・F4U二〇機が発進、九時から神町および山形を攻撃、神町で一〇機破壊・一二機損害、山形で七機破壊・二機損害。それぞれ格納庫なども攻撃し、山形では「東南の町」を攻撃し火災をおこした。

田村さんの日記では五時三〇分から攻撃開始とありますが、米軍資料では山形飛行場への最初の攻撃はレキシントンF6F隊の六時以降となり、最大一時間ほどの時間差があります。また最後となるレキシントンF4U隊の帰艦時刻は一二時四〇分となっているので、「一日中実戦」というのは問題が残ります。しかし、早朝からの波状攻撃であり、警報は続いていたはずですか



山形市・龍泰寺 1988年3月撮影



ら、日誌のような表現となっても無理はないでしょう。他隊の米軍機の通過があったかもしれない。

## 10月10日の空襲

翌八月一〇日も東北一円への空襲がくり返されました。米軍資料では山形県で主な対象となったのは、真室川・尾花沢・鶴岡の各飛行場とされています。このうち、真室川飛行場は、最上郡真室川町にあり、陸軍が特攻隊の訓練基地として使用していました。尾花沢飛行場とは、最上郡八向村（現・新庄市）の升形滑空場のことと思われる。当時は神町飛行場に属する訓練場でした。鶴岡飛行場については該当するものがありません。



さて、一〇日の空襲は、当初目標地域

が曇りがちで目標を変更したことが多いことが一つの特徴です。山形県内を当初目標としながら、実際には宮城・岩手など他の県を攻撃した事例がありました。

また、山形県内でも当初目標以外の神町・山形飛行場、酒田港などが攻撃されています。真室川では森林や近くの建物も、酒田では倉庫や鉄道ヤードも、攻撃した、と米軍記録にあります。

龍泰寺近くの山形飛行場を攻撃したことが報告されているのは次のものです。

○ 一時三〇分にレキシントンを発したTBM一〇機とF6F一〇機は、いずれも当初目標は真室川であった

が、実際には、TBMが真室川・尾花沢・神町を、F6Fが真室川・神町・山形を攻撃した。結果は、神町で一一機破壊、二機おそらく破壊、二機損害、山形で四機破壊、三機おそらく破壊、一機損害、真室川で三機破壊、五機おそ

らく破壊であった。

記録によると、この隊は上に記した日本機への打撃のほか格納庫を破壊しています。日誌にある「鮮やかな急降下爆撃」をしたのは、このF6F隊でしょう。

## 空襲の目的

米軍の報告書では日本機にどれほどの打撃を与えたのかが中心に書かれています。しかし、実際には飛行場周辺の民間施設や住居、そして民間人にも大きな被害がおよんでいます。全体として山形県内で約七〇人の死者が出たとの記録があります（『河北新報』一九七七年八月一日）。

例えば、神町飛行場周辺に隣接する大富村羽入地区では、一八世帯三三棟が焼失し、七人の犠牲者があったといえます。そして、必ずしも目標周辺ではないところにも被害がおよんでおり、駅や鉄道路線が特に狙われた形跡があります。

米軍報告書はこうしたことには直接ふれてはいませんが、山形県内だけでも真室川から山形、酒田まで広範な地域を飛びまわっている様子は十分にわかります。その間に適当な対象を見つけて攻撃しているのでしょう。そう考えると、この艦上機大空襲は、無差別空襲に限りなく近いものといえると思います。米軍の意図

も日本本土上陸作戦に備えて、日本の航空戦力を徹底的に破壊することとあわせて、一般民衆の抗戦の意志をくじく狙いがあったといえます。

## ポツダム宣言受諾の決定

ところで、一九四五年八月九日は、ソ連の対日参戦と長崎原爆投下があった日です。そして一〇日午前二時には御前会議で、連合国の降伏要求であるポツダム宣言を国体（天皇制）護持を条件に受諾することが決められました。一〇日午後九時五分、空母ヨークタウンの乗組員にこのことが伝えられると飛行甲板から大きな喝采が起った、と資料には書かれています。

※ 米軍の資料は、国立国会図書館憲政資料室所蔵の米国戦略爆撃調査団資料マイクロフィルムを使用しました（原文書はアメリカ国立公文書館所蔵）。

米軍資料の他、次の文献を参照しました。米山和也「艦載機からの空襲の研究方法について」（『空襲通信』第5号）。『河北新報』一九七七年八月、『河北町の歴史』、『新庄市史』、『鶴岡市史』、『東根市史』、『日本の空襲』 北海道・東北、『真室川町史』、『村山市史』、『山形市史』



# マチに火鉢を探して

## 「部屋のなかから外で使うものどこ？」

そもそも火鉢は、室内の暖房具として使われてきました。しかし、ボタンやスイッチで簡単に部屋全体を暖めるエアコン等が普及された現在、火鉢の使用は非常に少なくなりました。そして、本来の役割を終え、あらたな働きをする元火鉢がよく見られるようになりました。

ここでは、西池袋二丁目にある郷土資料館から、資料を収集している千早二丁目

の西浦区民事務所までの道沿いに見ることが出来る火鉢の一部をご覧いただきます。



2 洗い終えた格子模様の火鉢。次は何に使われるのだろうか？



1 手押し式井戸ポンプの右側に大きな火鉢。火鉢の上にバケツ。防火用だろうか、水が入っている。



3 玄関先には練炭火鉢の植木鉢



4 美術商の店先



5 金魚鉢として再出発



6 料理屋の店先にある2種類の火鉢。どちらにもホテイアオイが。

この道は、資料館の職員がよく自転車で通ります。およそ二・五キロメートル、一五分程の距離の道沿いには、写真のように、火鉢のあらたな人生がみられました。火鉢は、陶製・木製・金属製等さまざまな材料で作られています。道沿いのものは、耐水性がある陶製の元火鉢でした。

ということとは、陶製以外のものはどのような場所でどのような使われ方をしているのでしょうか。また、火鉢に関係する火熾し・火箸・五徳・灰ならしという道具は、どうなっているのでしょうか。さらに、それらを作っていた職人さんは、今何を作っているのでしょうか。

そのようなことを考えながら自転車で乗り、当館の資料がある西浦区民事務所四階の収蔵庫に通ったのは、二〇〇四年の秋でした。

(福岡)



# セピア色の記憶

## 第22回 元池袋公園から元池袋史跡公園へ

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和五九（一九八四）年一月四日と現在（二〇〇八年）二月撮影の西池袋一丁目九番街区の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。

「池袋事情通」の読者の方々にとっては、「なくんだ、元池袋公園か…。」とガツカリかも知れませんが、上の写真右



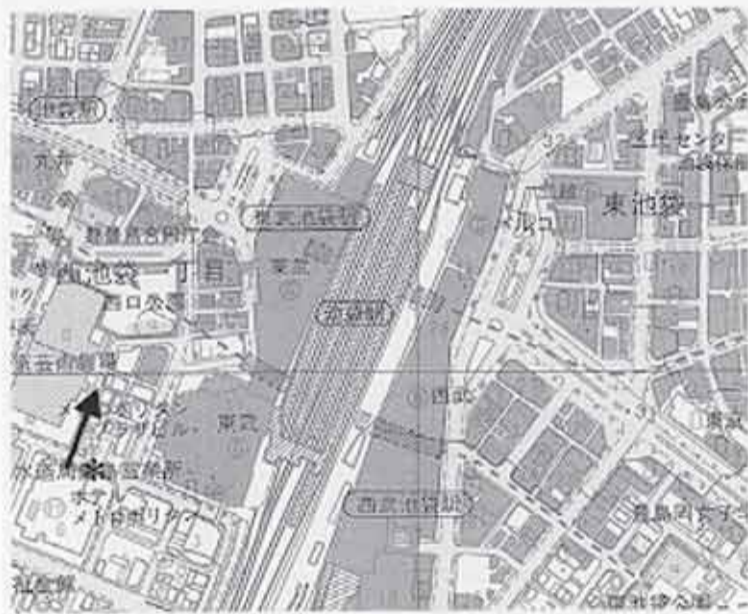
側欄内の丸池こそ、「池袋」という地名にゆかり深いとされる「池」なのです。欄の前に建つ「池袋地名ゆかりの池」と名付けられた石碑下には、「池袋地名の由来」と題されて「むかしこのあたりに多くの池があり、池袋の地名は、その池からおこったとも伝えられている。池には清らかな水が湧き、あふれて川となった。この流れはいつのころか弦巻川とよばれ、



雑司が谷村の用水として利用された。池はしだいに埋まり、水も涸れて今はその形をとめていない。これは、むかしをしのぶすがとして池を復元したものである。」と豊島区教育委員会による解説文が付されています。

この後、豊島区立元池袋公園は、敷地地下の下水道工事の関係で長年にわたり大きな欄で囲まれ閉鎖されていましたが、

かつての元池袋公園の位置よりやや東側に、平成一〇（一九九八）年三月、豊島区立元池袋史跡公園が竣工し、前述の石



碑も公園内に移設され、現在に至っています。現況写真が史跡公園の写真ではなく高層マンションの写真になっているのは、こうした事情によりです。

まだ元池袋公園が所在した昭和五九年発行の住宅地図（右図参照）には、「私立池袋幼稚園」、「芝浦工業大学高等学校」といった地元の人にとっては涙が出るほど懐かしい施設名の位置が記され、現在のホテルメトロポリタンの場所は、「池袋西口駐車場」、現東京芸術劇場は、「屋外ローラースケート場、テニスコート」などとなっています。池袋駅西口の景観が大きく変貌する直前の時代のお話です。

（秋山）

\*丸池については、二〇〇九年三月発行予定の「生活と文化 第一八号」所収の青木哲夫「丸池説話成立に関する文献的考証」（仮題）もご参照願います。





**【報告】企画展「一粒入魂！〜日本の農業をささえた種子屋〜」**

いちりゅうにゅうこん

二〇〇八年度企画展「一粒入魂！〜日本の農業をささえた種子屋〜」が、昨年一月一四日に無事終了しました。

一月一六日のオープンから実質四八日間で、五、八二人の来館者がありました。

今回の企画展では、種苗業界のPR効果もあって、都内・近県はもちろん京都、群馬、福島県などから関係者が多く来館されました。

戦時中の統制時代の苦労など貴重な情報をお寄せいただきました。さらに区内目白にあったヤマト種苗農具(株)の資料を、ヤマト種苗緑化(株)よりご寄贈いただくなど、新たな資料の発見もありました。

また、大学生や三〇〜四〇代の比較的若い世代の見学者が多かったのは今までにない傾向でした。特に今回は、親子で楽しむ体験コーナーを設けて、小中学校に見学を呼びかけました。残念ながら団体見学はありませんでしたが、地元の池袋第三小学校の子どもたちが放課後に毎日のように来て、クイズに挑戦しました。学校との連携事業のあり方については今後の課題といえます。

会期中のアンケート回答は一〇九件で、おおむね好評をいただきました。見学者の

**「日本の農業をささえた種子屋」**

声をいくつかご紹介いたします。

◆地域資料を生かした地道で素晴らしい展示だと思いました。(二〇代女性)

◆大変充実した展示で、種の注文書や種子袋、当時の地図、野菜の生産地としての東京の姿が生き生きと立ち上がってきました。(四〇代女性)

◆タネの展示の統編が見たいです。とても素晴らしい感動しました。ぜひお願いします。親子共に楽しみました。(三〇代男性)

◆想像以上の展示内容に驚きました。資料保存状態の良さは、エノモン会皆様の御陰でしょう。これからも頑張ってください。(五〇代男)

◆地味ながら郷土の歴史の一端をしつかりと調査・展示していると思います。(六〇代男)

◆展示パネル

性)



ルや古民具など、いろいろのもの距離感が、ちょうどいい具合でした。見やすく読みやすかったです。かすかに流れてくるBGM(種物音頭)もよかったです。東京の野菜達はどんなお料理をされていたのかと気になり、思いを巡らせました。何点か往時を偲ぶごちそうのバーチャルが目前にあつたらナ：と思いました。(六〇代女性)

◆種の事がよく分かりクイズもおもしろかったです。小学生でも為になる展示をお願いします。(四〇代女性)

◆貴重な種子業の歴史を実際にみることでできました。食の問題がある中、この様な経緯で私たちは野菜を食べることができていると深く感じております。(四〇代男性)

★ ★ ★

最後にになりましたが、栗鴨庚申塚の榎本留吉商店(現東京種苗)の資料をご寄贈いただきました榎本泰吉様をはじめ、種苗関係資料をご提供いただきました所蔵者・諸機関の皆様、そしてご指導いただきました種苗業界の皆様は大変お世話になりました。心より厚く御礼申し上げます。(横山)

◆臨時休館のお知らせ◆

一月一八日〜一月二七日 展示替え

二月一六日〜二月二四日 展示替え

かたりべ No.92

2009年1月20日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4

豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351  
URL: http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/

★展覧会のごあんない

**「明治女学校100年」記念展  
明治女学校とその時代**  
「明治の青春はそこにあった」

会期：1月28日(水)

~2月15日(日)

休館日：2月2日・9日・11日

時間：午前9時~午後4時30分

主催：明治女学校100年記念事業  
実行委員会

**編集後記**

明けましておめでとーございます。郷土資料館は今年六月に開館二五年目を迎えます。「かたりべ」も一〇〇号に近づいてきました。

今年は企画展のほかに、資料の移動やデータベース化作業など、あわただしい一年となりそうです。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。(よこ)